

<目指せ！ 1等米比率90%以上！！>

- ◎ 苗立後は、**浅水管理**を徹底し、初期分けつを確保しましょう。
- ◎ 除草剤は、使用時期の範囲内で**遅れないように散布**しましょう。
- ◎ 5月下旬頃から茎数は急激に増加します。**溝掘りと中干しは、遅れずに実施**しましょ

1 出芽後からの水管理

① 苗立後～6月上旬【浅水管理】

- ・ 出芽が揃ったら、早朝又は夕方に水を入れ、昼間は止水で3cm前後の浅水管理を行い、早期分けつの確保に努めましょう。
- ・ 表層はく離が見られる場合は、2日間程度の田干しを行い、田面を落ち着かせましょう。

② 5月下旬～6月上旬【溝掘り】

- ・ 水管理をスムーズに行うため、6月上旬までに**必ず溝掘り**を行いましょ。
- 10～15条に1本の割合で溝を掘り、水尻としっかり連結しましょ。

③ 6月上旬【中干し開始】（目安：5月初旬の播種で6月10日頃）

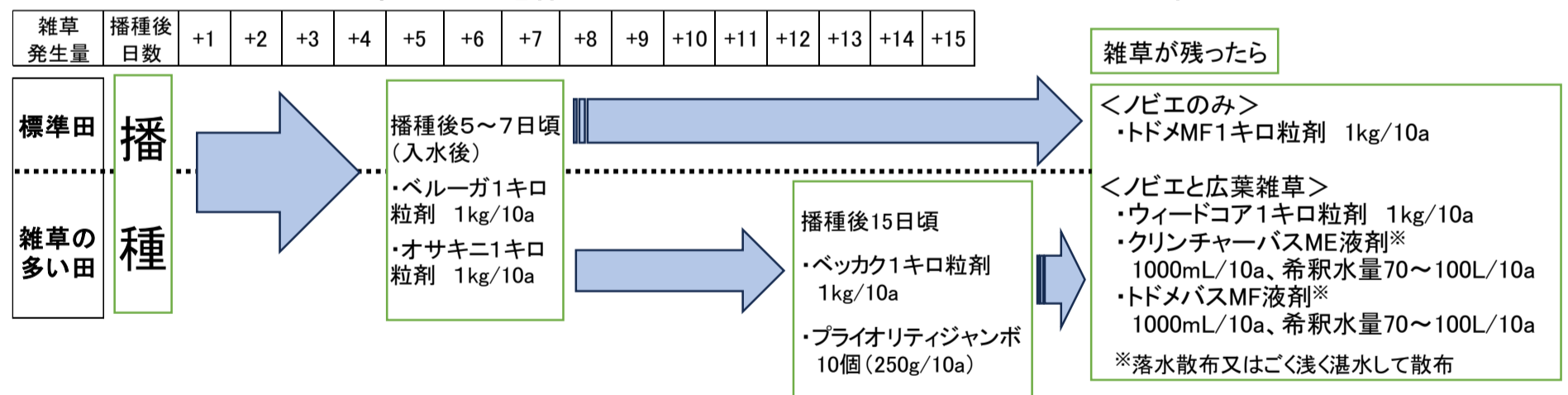
- ・ 過剰分けつを抑え茎の充実を図るため、**茎数 100本/m(6.5葉期頃)**を確保したら遅れずに中干しを開始しましょ。
- ・ 土の表面に小さな亀裂が入り、田面が硬くなるまで田を干しましょ。



中干し時期のほ場

2 雑草防除

- ・ 田面の亀裂が大きい場合は、入水後、減水が落ち着いてから除草剤を散布しましょ。
- ・ 基本、散布後5日間は**湛水状態を保ち**、散布後7日間までは落水しない**止水管理**を徹底しましょ。



3 葉いもち防除

- ・ 葉いもちの発生を防止するため、**予防粒剤を必ず散布**しましょ。

散布時期	薬剤名	散布量	備考
6月10～15日 (中干し後)	オリゼメート 1キロ粒剤	1kg/10a	薬剤散布後4～5日間は「湛水状態」を保ち、7日間は落水や掛け流しをしない

3/1～5/31 春の農作業安全運動実施中 農作業事故ゼロを目指して事故防止対策を徹底

あなたも農作業中に「ヒヤリ」とした経験はないですか？春の農繁期は農作業事故が発生しやすい季節です。農場や道、用水路など危険箇所を事前に確認し、余裕をもった作業計画を立て、事故を未然に防止する対策を徹底しましょ。